

がんプロフェッショナル紹介

泌尿器科 谷川俊貴



スタッフ

谷川俊貴 1984 年 新潟大学卒、泌尿器科専門医、指導医、医学博士
白野侑子 2008 年 福井大学卒、泌尿器科専門医、指導医、腹腔鏡技術認定医、医学博士
晝間 楓 2012 年 新潟大学卒、泌尿器科専門医、指導医、腹腔鏡技術認定医、医学博士
中山 亮 2013 年 新潟大学卒、泌尿器科専門医、指導医
中澤 徹 2023 年 山形大学卒、泌尿器科専攻医

特徴

泌尿器科は尿路系（腎、腎盂、尿管、膀胱、尿道）、男性生殖器系（前立腺、精巣など）、腎や尿管の周囲（後腹膜腔）や副腎の病気について、診断と治療を行います。これらの臓器のがんや腫瘍の他、腎不全（例えば腎移植）、前立腺疾患による排尿障害（前立腺肥大症）、脳梗塞や脊髄損傷後の排尿障害（神経因性膀胱）、女性の排尿異常（過活動膀胱、腹圧性尿失禁）、男性性機能障害（勃起障害、男性不妊症）、尿路系や男性性器奇形などが泌尿器科の守備範囲です。

当科はこれらのうち、がん（悪性腫瘍）を主に治療しています。例えば、膀胱がんの手術件数は、全国でも当科が常に上位（5 位以内）にランクされていますし、腎がんの手術件数も同様で、腹腔鏡下手術も多く行っています。最近、日本でも増加している前立腺癌は当科でも 10 年前に比べて 10 倍以上の患者さんを治療しており、県内の他施設にはない密封小線源治療も施行しております。膀胱がん、腎がん、前立腺がんは、多くの新規薬物治療が行える様になり、5 年生存率も 20 年以上前に比べ 2-3 倍程度に延長しています。

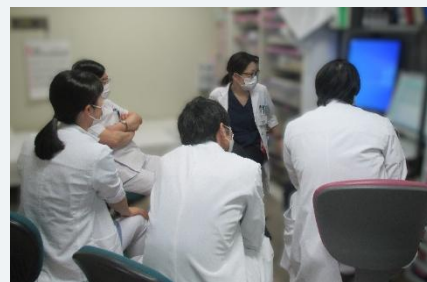
また、標準的治療が奏功しなくなった場合には、遺伝子パネル検査により治療選択肢がないか探ることもできます。



＜泌尿器科医師＞ 左より中山医師・谷川医師
晝間医師・中澤医師

こんな時に受診をお願いします

尿に血が混じって赤い時（血尿）—膀胱、腎臓など尿路系の癌や、腎や尿管の結石のことがあります。排尿すると痛い（排尿痛）—膀胱炎や膀胱上皮内がん、前立腺疾患の可能性もあります。尿の勢いが弱い、尿の回数が多い、尿漏れがある—男性ならば前立腺の病気が疑われます。脳梗塞など神経系の病気でも排尿がうまくいかないことがあります。また、開業医の先生や他の病院から紹介される患者さんが多く、検診や人間ドックの検査結果により受診される患者さんも増えています。症状がなくても、血液検査や超音波検査の結果泌尿器科へ行くように指示された場合、必ず受診をお願いいたします。



カンファレンスの様子